

【問題1】 選択肢①、②、③、④は、**調査者の役割**についての記述である。これらのうち**適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① 建築物所有者は、調査者から石綿使用箇所がない旨の建物調査報告書を受け取った場合には、当該調査結果を特定行政庁に提出しなくてよい。
- ② 建築物改修の事前調査では、改修が行なわれる部屋および隣室のみを調査対象とする。
- ③ 調査者は、石綿含有建材が使用されている環境では、定期的に室内の空気環境測定を行なうように建築物所有者に説明することが望ましい。
- ④ 調査者は、改修・解体に伴う事前調査ではない建築物調査においては、建材の採取分析の要否を判断しなくてよい。

回答 : ③

【問題2】 選択肢①、②、③、④は、**石綿の種類**についての記述である。これらのうち**適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① わが国の法令でいう石綿とは、天然のケイ酸塩鉱物のうち繊維状を呈している物質すべての総称である。
- ② バーミキュライトには、常に石綿が混入している。
- ③ 過去の建材石綿分析結果報告書を、石綿含有に関する判断に使う場合は、分析定量下限値および分析対象とされた石綿の種類に注意が必要である。
- ④ 石綿スレート屋根材は、レベル1の建材に属する。

回答 : ③

【問題 3】 選択肢①、②、③、④は、**石綿関連疾患**についての記述である。これらのうち**適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① がん以外の石綿関連疾患としては、石綿肺、良性石綿胸水、びまん性胸膜肥厚がある。
- ② 石綿によるがんとしては、胸膜プラーク、中皮腫、石綿関連肺がんなどがある。
- ③ 一般に、石綿ばく露開始から胸膜プラークの出現までの潜伏期間は、石綿関連肺がんのそれより長い。
- ④ わが国における中皮腫の年間死亡数は、1995年（平成7年）から2014年（平成26年）の間、横ばいが続いている。

回答 : ①

【問題 4】 選択肢①、②、③、④は、**空気中の石綿濃度**についての記述である。これらのうち**適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① 吹付け石綿がある部屋の空気中の石綿濃度が、大気中の石綿濃度とほぼ同程度であったとの報告は存在しない。
- ② 現在、わが国では、石綿建材が使われた建物内の石綿濃度基準は決められている。
- ③ 環境省が決めしている事業場の敷地境界における石綿濃度は、安全性の基準と考えてよい。
- ④ 石綿含有建材の切断や加工・掃除作業時は、空気中の石綿濃度が数 f/mL～数百 f/mL になりうる。

回答 : ④

【問題5】 選択肢①、②、③、④は、**建築物と石綿関連疾患**についての記述である。これらのうち**適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① 吹付け石綿のある建物内で働いたことによる教員やビル管理者の胸膜及び腹膜の中皮腫の発生に関する学術論文はない。
- ② 患者の肺組織中の石綿小体の検出が、過去の石綿ばく露の証拠になる。
- ③ 厚生労働省によれば、吹付け石綿のある建物・部屋・倉庫での作業（建設業以外）での石綿関連疾患業務上認定（石綿救済法適用含む）は2013年（平成25年）までに10名以下である。
- ④ 厚生労働省によれば、建設業における2010～2013（平成22～25）年度の石綿ばく露による中皮腫の労災認定数は1年当たりおよそ2,500名である。

回答 : ②

【問題6】 選択肢①、②、③、④は、**建築物内の空気中の石綿濃度とその健康リスク**に関連した記述である。これらのうち**適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① 吹付け石綿の肉眼でわかる損傷と空気中の石綿濃度とがたいへんよく相関するとした論文は多数ある。
- ② 英国と米国では、吹付け石綿の危険な状況の最終的な判定には顕微鏡確認を含む石綿濃度測定が求められてはいない。
- ③ 空気中の石綿濃度測定結果がばらつく場合には、測定の精度管理にも留意するが、再検査までする必要はない。
- ④ 肺がんのリスクは石綿ばく露濃度と年数の積に比例して高まり、中皮腫のリスクは初ばく露年からの経過年数が長いほど高まることがわかっている。

回答 : ④

【問題 7】 選択肢①、②、③、④は、**リスク管理**に関連した記述である。これらのうち**適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① わが国には、吹付け石綿のある建築物内で働いた人の中皮腫罹患の責任を、占有者が負うことになった判決例がある。
- ② リスクコミュニケーションの成功とは、情報発信者の意図が受け入れられることに等しい。
- ③ これからの環境リスク管理においては、利害関係のない第三者の専門家に全てを委任するのが望ましい。
- ④ わが国では、石綿の健康影響対策をたてるうえで、環境分野では千人に1人が中皮腫や肺がんになるリスクが目安とされてきた。

回答 : ①

【問題 8】 下表は、防火地域内における一定規模以上の建築物の主要構造部を耐火構造などとしなければならぬ**建築物の延べ面積**を示した表である。(ア)に入る面積を選択肢①、②、③、④から**適切なもの**を選びなさい。

階数	防火地域内の制限		
	延べ面積		
	(ア) 以下	(ア) 超	
4 階建て以上	耐火建築物		
3 階建て			
2 階建て			準耐火建築物
1 階建て			

(選択肢)

- ① 100 m²
- ② 500 m²
- ③ 1,500 m²
- ④ 3,000 m²

回答 : ①

【問題 9】 選択肢①、②、③、④は、**図面名称と図面の記載内容例**についての記述である。これらのうち**不適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① 特記仕様書は、工事に使用する材料の規格等図面に表現できない事項を文字や表で記載している。
- ② 立面図は、東西南北の外観を記載している。
- ③ 矩計詳細図は、天井の見上げ図を各階毎に書き、仕上げの建材名などを記載している。
- ④ 断面図は、床の高さ、軒高、天井高、軒の出寸法や北側斜線制限などを記載している。

回答 : ③

【問題10】ア、イ、ウ、エは、**建築基準法の防火規制**についての記述である。選択肢①、②、③、④は、これらの記述が適切（○）であるか不適切（×）であることを示したものである。**組合せとして正しいもの**を選びなさい。

ア．建築基準法では、建築物の用途、規模、地域に応じて、建築物を耐火建築物とすることなどが義務付けられている。

イ．防火規制とは、耐火構造、準耐火構造、防火構造、防火区画などをいう。

ウ．劇場、映画館または演芸場の用途に供するもので、主階が1階にないものは耐火建築物にしなければならない。

エ．「延焼のおそれのある部分」とは、隣地境界線及び道路敷地境界よりそれぞれ1階にあつては3 m以下、2階以上にあつては5 m以下の距離にある建物の部分をいう。

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	×	○	○	×
②	○	×	×	○
③	○	○	×	×
④	○	○	○	×

回答 : ④

【問題 1 1】 選択肢①、②、③、④は、**建築物の主要構造部**についての記述である。これらのうち**不適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① 主要構造部の「構造上重要な」とは防火上の観点を意味する。
- ② 建築物の構造上重要でない間仕切壁、間柱、附け柱は主要構造部に含まない。
- ③ 居室と避難施設たる廊下などとの区画を構成する間仕切壁は主要構造部に含む。
- ④ 主要構造部とは構造耐力上主要な部分をいう。

回答 : ④

【問題 1 2】 選択肢①、②、③、④は、**防火区画**についての記述である。これらのうち**不適切なもの**を選びなさい。

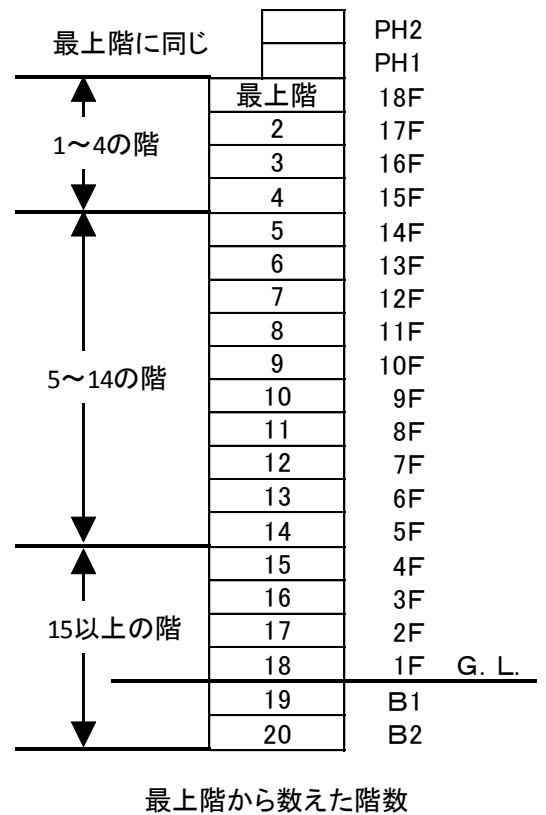
(選択肢)

- ① 防火区画に接する外壁は、接する部分を含み 60cm 以上の部分を耐火構造または準耐火構造としなければならない。
- ② 電気設備のケーブルが上下階や壁を貫通する場合の区画貫通処理に、ケイ酸カルシウム板第二種を使用することが多い。
- ③ 同じ建築物の中に、用途や管理形態が異なるものが存在する場合（例えば複数のテナントが入るデパートと店舗・飲食店など）には、用途や管理形態の異なる部分を区画しなければならない。
- ④ 階段や吹抜け、エレベーターのシャフトやパイプシャフトのように縦方向に抜けた部分は、煙突効果によって有害な煙や火災の熱を容易に上階に伝えてしまう。法令により、3 層以上の堅穴には、堅穴区画が必要となる。

回答 : ①

【問題 1 3】 下図に示すように、耐火建築物の階によって要求される耐火性能は異なる。下図の建築物の部分の符号（ア）と符号（ウ）は同じ要求耐火性能である。この（ア）と（ウ）欄に入る部位名称を、選択肢①、②、③、④から適切なものを選びなさい。

(才)	(工)	(ウ)	(イ)	(ア)	壁		建築物の部分 建築物の階数
					外壁	間仕切壁	
30 分間	30 分間	1 時間	1 時間	1 時間	1 時間	1 時間	最上階および最上階から数えた階数が2以上で4以内の階
		2 時間	2 時間	2 時間	2 時間	2 時間	14以内の階
		3 時間	2 時間	3 時間	2 時間	2 時間	最上階から数えた階数が15以上の階



(選択肢)

- ① 床と柱
- ② はりと床
- ③ 階段と柱
- ④ 柱とはり

回答 : ④

【問題14】ア、イ、ウ、エは、石綿含有建材の名称についての記述である。選択肢①、②、③、④は、これらの建材が、鉄骨建築物の耐火被覆として施工されている（○）か、いない（×）かを示したものである。組合せとして正しいものを選びなさい。

- ア．吹付け石綿
- イ．石綿含有吹付けロックウール
- ウ．石綿含有吹付けパーライト
- エ．ケイ酸カルシウム板第一種

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	○	○	×	○
②	×	○	○	○
③	○	○	×	×
④	○	×	○	○

回答 : ③

【問題15】ア、イ、ウ、エは、調査に当たる際の建築確認図などの設計図書を建築物所有者から借用する場合の取り扱いについての記述である。これらの記述の中から不適切なものがいくつあるか、選択肢①、②、③、④から正しいものを選びなさい。

- ア．使用目的と不要な部分の閲覧・複製をしない旨の説明。
- イ．説明した目的以外のために閲覧・複製してはいけない。
- ウ．返却の際は図面・書類借用書に基づき返却を確認する。
- エ．複製であっても、使用後に返却しなければならない。

(選択肢)

- ① 0 (なし)
- ② 1つ
- ③ 2つ
- ④ 3つ

回答 : ①

【問題 1 6】2000 年（平成 12 年）の建築基準法改正前の耐火構造の指定番号は「耐火W2033」のように表記される。「耐火」の後にアルファベットが 1～2 文字、その後に 4 桁の数字で表記される。4 桁の数字が「2」で始まると 2 時間耐火を意味し、「1」で始まると 1 時間耐火であることを示している。下表横軸には**建物部位を表す英語符号**を示している。選択肢①、②、③、④は各々の英語表記が意味する部位名称との組合せである。日本語表記の**組合せとして正しいもの**を選びなさい。

部位名称 英語表記 選択肢	G	C	F
①	柱	はり	外壁
②	はり	柱	床
③	はり	柱	外壁
④	柱	はり	床

回答 : ②

【問題 1 7】選択肢①、②、③、④は、**内装制限を受ける一定の規模以上の特殊建築物**についての記述である。これらのうち**適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① 劇場・映画館、病院、百貨店等の居室などの内装制限は、床面からの高さが 1.2m以下の部分は除く。
- ② 居室から地上に通じる主たる廊下・階段・通路は不燃材料とすること。
- ③ 主要構造部を耐火構造とした場合を除き、調理室、浴室、乾燥室、ボイラー室などの壁・天井を不燃材料とすること。
- ④ 不燃材料には国土交通省告示に定める仕様を用いる場合と、日本建築センターの認定を受けた仕様を用いる場合がある。

回答 : ①

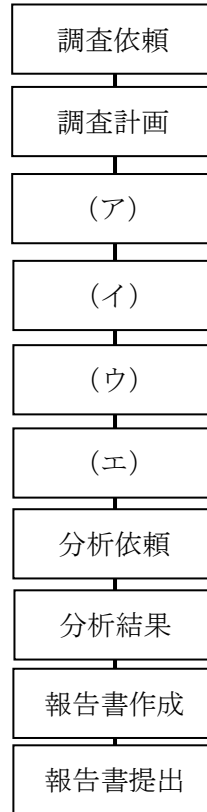
【問題18】ア、イ、ウ、エは、**現地調査の留意点**についての記述である。選択肢①、②、③、④はこれらの記述が適切（○）であるか、不適切（×）であるかの組合せを示したものである。**組合せとして正しいもの**を選びなさい。

- ア. 調査者は、調査対象の建築物に応じて、調査漏れや再調査の発生を防ぐために、事前の計画や準備を十分行うことが重要である。
- イ. 維持管理を目的とした建築物調査の場合、破壊検査を基本とし、高所・有毒ガスなどの危険区域も原則として調査する。
- ウ. 建築物調査は、建築物などの適正な維持管理や改修及び解体工事を目的として実施するが、それぞれの調査の種別によって手法や装備などが異なることはない。
- エ. 調査依頼者は、建築物所有者、建築物管理者などであるが、現地の立合者は建築物管理人、案内人、無人など異なった条件のこともある。

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	×	×	○	×
②	○	×	○	○
③	○	×	×	○
④	×	○	×	○

回答 : ③

【問題 19】 下の図は、石綿含有建材調査者の業務フローである。選択肢①、②、③、④は、フローの空欄（ア）、（イ）、（ウ）、（エ）に入る語句を示している。（イ）に入る語句を選択肢①、②、③、④から選びなさい。



(選択肢)

- ① 事前準備
- ② 劣化度判定
- ③ 現地調査
- ④ サンプルング

回答 : ③

【問題20】ア、イ、ウ、エは、**現地調査の留意点**についての記述である。選択肢①、②、③、④は、これらの記述が適切（○）であるか、不適切（×）であるかの組合せを示したものである。**組合せとして正しいもの**を選びなさい。

- ア. 調査者は、調査の前日までに必要な用品や装備を準備しておくことが重要である。準備する過程で調査の段取り、手順を確認することにより、調査を円滑に進めることができる。
- イ. 建築物がS造なのかRC造なのか、また改修工事の形跡はあるのかの判断など、調査に必要な情報を、外観の観察から読み取るのは困難である。
- ウ. 石綿含有建材は、結露防止や断熱を目的として北側の妻側壁のみに使用されたケースがある。従って、現地調査では、方位の確認が重要である。
- エ. 定礎に刻印された年月は、発注者と施工業者の契約時期を表している。

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	×	○	○	×
②	○	×	○	○
③	×	○	×	○
④	○	×	○	×

回答 : ④

【問題 2 1】ア、イ、ウ、エは、**現地調査の留意点**についての記述である。選択肢①、②、③、④は、これらの記述が適切（○）であるか、不適切（×）であるかの組合せを示したものである。**組合せとして正しいもの**を選びなさい。

- ア. 事務室や店舗などの調査時に利用者や滞在者が多数いる場合には、石綿含有建材の調査者であることを伝えるためにも、保護帽や保護マスクを装着して行動することが望ましい。
- イ. 試料採取に際しての呼吸用保護具は、国家検定合格品のDS-1またはDL-1の使い捨て式防じんマスクの装着が望まれる。
- ウ. 調査には迅速性が必要である。同一パターンの部屋が続いた場合、一部屋で多めに試料採取して、それを小分けして他の部屋の分として円滑な調査を行う。
- エ. 現地調査における最大の留意点は、調査ミスをしないうことであり、この調査ミスの最大の要因は、調査漏れである。

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	×	○	○	×
②	○	×	○	○
③	○	○	×	×
④	×	×	×	○

回答 : ④

【問題 2 2】ア、イ、ウ、エは、**現地調査で見落としやすい箇所と関連用語**に関する記述である。選択肢①、②、③、④は、これらの記述が適切（○）であるか、不適切（×）であるかの組合せを示したものである。**組合せとして正しいもの**を選びなさい。

- ア. 軒天は建築物の外周部にあり、軒天裏には吹付けロックウール等が使われていることもあるが、点検口などが無い場合もあり、調査では見落としやすい箇所である。
- イ. 折板屋根は鉄板を折り曲げ加工した屋根で、これらに吹付け工法や貼り付け工法などで石綿含有建材が使用されていることが多い。
- ウ. 各階の外周部の床と外壁の間には、構造的な隙間がある場合が多く見られる。下の階からの延焼を防止するために、耐火被覆施工時に石綿やロックウールを充填している。これを小間詰めという。
- エ. デッキプレートとはりが直交する部分に台形の隙間が生じる。この隙間を層間塞ぎと称し、吹付け石綿や吹付けロックウールまたはケイ酸カルシウム板第二種やロックウールのフェルトなどで隙間を塞いでいる。

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	×	○	×	○
②	○	×	○	×
③	○	○	×	×
④	×	×	○	○

回答 : ③

【問題 2 3】 ア、イ、ウ、エは、**現地調査の留意点**についての記述である。これらのうち**適切な記述**はいくつあるか、選択肢①、②、③、④から選りなさい。

- ア. 建築物石綿含有建材調査者を雇用する事業主は、調査者が定期に受診した健康診断の結果を、当該調査者が当該事業場において常時当該業務に従事しなくなった日から30年間保存しなければならない。
- イ. 調査者は、試料採取時に自らの石綿ばく露防止とともに周囲への石綿飛散防止に努めなければならない。
- ウ. 吹付け石綿などからの粉じん飛散が目視などで確認できるような場合、立入領域に対して HEPA フィルター付き真空掃除機による事前清掃を行う。
- エ. 夏季における高温ボイラー室など過酷な条件の調査の場合は、半袖の作業着で円滑な作業を行う。

(選り肢)

- ① 1つ
- ② 2つ
- ③ 3つ
- ④ 4つ

回答 : ②

【問題 2 4】選択肢①、②、③、④は、**現地調査の記録方法**についての記述である。これらのうち**不適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① 調査を正確に行うために、調査対象部屋内でメモや写真などによる記録を残しておくことが大切である。
- ② 調査対象物の写真撮影を行う場合は、広角撮影と近接撮影をしておくといよい。ただしアップで真正面から撮影すると平面的で、内容不明、部位不明の写真となってしまうおそれがある。
- ③ 吹付け石綿や配管保温材調査の場合には、建屋全景写真は必要ない。
- ④ 現地調査では、建物の使用状況やセキュリティー上、あるいは労働安全衛生上の理由などにより、調査が十分できない場合がある。このような場合には、必ずその旨をメモしておく必要がある。

回答 : ③

【問題 2 5】選択肢①、②、③、④は、**分析結果のチェック**についての記述である。これらのうち**不適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① 調査者は、適切な技術者教育、精度管理プログラムや技能試験を実施している分析機関を選定し、分析方法の特徴と問題点を理解して分析結果を管理する必要がある。
- ② 調査者は分析機関からの結果報告を十分チェックし、疑問や違和感がある場合には、すぐに問い合わせその原因を究明しなければならない。場合によっては、分析機関での再分析や第三者分析機関での確認分析を依頼しなければならないこともある。
- ③ 再調査が必要になった場合、最終報告書の納期までの限られた時間内に、発注者に適切な理由を説明し、信頼関係を維持しながら業務を完了しなければならない。そのためにも調査者自身による早めの分析結果のチェック作業は重要である。
- ④ 最終報告書の納期が無い場合には、分析機関からの結果速報や分析結果報告書を、速やかにそのまま現地調査総括票に記入し報告書とする。

回答 : ④

【問題 2 6】 選択肢①、②、③、④は、JIS A 1481-3 についての記述である。これらのうち**不適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① 定量用 2 次試料を作成する際、20%ギ酸でアスベスト以外のものを溶かす。
- ② 定量用 3 次分析試料を用いて定量分析をする場合、定量下限値が 0.1%よりも高くなることもあり、基準値 0.1%付近の低濃度のものを分析する場合には注意が必要である。
- ③ アスベスト含有率が 1 %未満と予想される場合には、検量線Ⅱ法が推奨されている。
- ④ 試料のばらつきや測定手法のばらつきを考慮した上で、 $n = 2$ 回の分析を原則とする。

回答 : ④

【問題 2 7】 選択肢①、②、③、④は、**分析結果を受け取った際の確認作業**に関する記述である。これらのうち**不適切なもの**を選びなさい。

(選択肢)

- ① 分析機関から送られてきた分析結果には間違いがないと思いきむのは危険である。
- ② 分析結果は社判押印、分析者氏名、分析結果総括、写真、チャートが揃っていることが最も重要である。
- ③ 分析機関での再分析や第三者分析機関での確認分析をしなければならないこともある。
- ④ 分析結果のチャートに違和感や乖離の原因が分からない場合は、調査者自身のミスの可能性も否定できないとして、再度の現地調査を実施することも考えられる。

回答 : ②

【問題28】ア、イ、ウ、エは、JIS A 1481-1 についての記述である。選択肢①、②、③、④は、これらの記述が適切（○）であるか不適切（×）であるかを示したものである。組合せとして正しいものを選びなさい。

ア．肉眼及び実体顕微鏡により、試料の全体をよく観察する。

イ 偏光顕微鏡による観察の前に試料を粉砕する。

ウ．実体顕微鏡による観察の前に、必要に応じ試料を灰化や酸処理、浮遊沈降等により前処理する。

エ．石綿の同定に使用できる電子顕微鏡は、走査型電子顕微鏡（SEM）と透過型電子顕微鏡（TEM）である。

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	○	×	×	○
②	×	○	○	×
③	○	×	○	○
④	×	○	×	×

回答 : ③

【問題 29】ア、イ、ウ、エは、分析試料採取についての記述である。選択肢①、②、③、④は、これらの記述が適切（○）であるか不適切（×）であるかを示したものである。組合せとして正しいものを選びなさい。

ア. JIS A 1481-1 と JIS A 1481-4 の偏光顕微鏡または電子顕微鏡による分析では、建築現場で混合された吹付け石綿などは最小体積 10cm³、工場出荷された建材製品は最小体積 1 cm³ を試料採取量とする。

イ. JIS A 1481-2 の位相差顕微鏡、X線回折装置による分析と JIS A 1481-3 のX線回折装置による分析では、吹付け石綿などや保温材のようなやわらかい材料は 1 ヲ所 10cm³程度で 3 ヲ所から、板状の比較的硬い材料は 1 ヲ所 100cm²程度で 3 ヲ所から採取する。

ウ. JIS A 1481-2 の解説には、板状の比較的硬い材料は 1 ヲ所 10cm³で良いとしている。

エ. JIS A 1481-1 では 1 材料につき 1 ヲ所の採取で混合しない。

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	○	×	×	×
②	○	○	○	○
③	×	×	○	○
④	×	○	×	×

回答 : ②

【問題 30】 選択肢①、②、③、④は、アスベスティフォームについての記述である。これらのうち不適切なものを選びなさい。

(選択肢)

- ① アスベスティフォームとは破碎または加工したときに、長く、細く、かつ柔軟で強い繊維に容易に分かれ（解綿し）、高い抗張力および柔軟性をもつ鉱物の繊維形態の特殊なタイプである。
- ② トレモライト、アクチノライト、アンソフィライトは、いずれもアスベスティフォームを示さない。
- ③ アスベスティフォームは、繊維束になっている互いに平行な繊維として偏光顕微鏡で観察できる。
- ④ アスベスティフォームは、 $5\mu\text{m}$ を超える繊維について $20:1$ 以上のアスペクト比を持つ繊維である。

回答 : ②

【問題 3 1】ア、イ、ウ、エは、建築物石綿含有建材調査報告書についての記述である。選択肢①、②、③、④は、これらの記述が適切（○）であるか不適切（×）であるかを示したものである。組合せとして正しいものを選びなさい。

ア．調査報告書の主要部分は、現地調査総括票、現地調査個票・写真集である。

イ．現地調査総括票は、調査した建築物の吹付け石綿（レベル1）および保温材・断熱材・耐火被覆材（レベル2）、成形板その他（レベル3）の石綿建材の有無を建築物の所有者に報告するための様式である。

ウ．自治体では、現地調査総括票を基に建築物データベースに保存する。

エ．現地調査総括票は、記入項目に不明および該当内容がない場合はそれぞれ「不明」、「－」と記載し、空欄としない。

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	○	○	×	×
②	×	○	○	○
③	○	×	○	○
④	×	×	×	○

回答 : ③

【問題32】ア、イ、ウ、エは、現地調査総括票における「建築物の概要」を記入する時の注意事項についての記述である。選択肢①、②、③、④は、これらの記述が適切（○）であるか不適切（×）であるかを示したものである。組合せとして正しいものを選びなさい。

ア. 建築物名称 : 建築物の調査時点での名称を記入する。

イ. 建築物所在地 : 地番・家屋番号または住居表示を記入する。

ウ. 建築物構造 : 鉄骨造はS造、鉄骨鉄筋コンクリート造はSRC造など略称でよい。

エ. 敷地面積・延床面積 : 小数点以下は切り捨てとする。

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	×	×	×	○
②	○	○	○	×
③	○	×	○	○
④	×	○	○	○

回答 : ③

【問題 3 3】 選択肢①、②、③、④は、現地調査総括票における「今回調査箇所」の表のうち、下図の薄墨部分を記入する時の注意事項である。これらのうち不適切なものを選びなさい。

■ 今回調査箇所

棟・階層	縦穴区画・煙突	部位	材料名	レベル	調査手法	劣化度	分析結果	参照頁	備考
	()				目視・採取				

(選択肢)

- ① 縦穴区画・煙突 : 縦穴名称および煙突名称を記入する。煙突の場合は () 内に建物一体型あるいは独立煙突かを記載する。
- ② 部 位 : はり、柱など建築一般呼称でよい。採取した位置を示しているのではなく、石綿含有可能性材があった部位の全部を示している。
- ③ 材 料 名 : テキスト巻末資料 8 の表 1. 建材一覧表に示された一般名称で記載する。
- ④ 調 査 手 法 : 採取した場合は「採取」に○をする。採取しなかった場合や調査対象となるものが無かった場合は「目視」に○をする。

回答 : ①

【問題 3 4】 選択肢①、②、③、④は、現地調査総括票における「調査者からの今後の維持・管理のためのアドバイス」を記入する時の注意事項である。これらのうち適切なものを選びなさい。

(選択肢)

- ① 劣化度が「劣化」の場合、今後の管理のために石綿濃度測定を推奨する必要はない。
- ② 床や天井ボード裏に石綿の破片があり、石綿粉じんの飛散が懸念される場合は、速やかに石綿の破片を所有者に回収させることが重要である。
- ③ 劣化度が「やや劣化」の場合、管理のあり方について一定の見解は示しにくいだが、使用頻度の多少、使用者に未成年が多いかなど考えて記載することが大切である。
- ④ アドバイスを行う上で重要なことは、年数回程度の特定期使用者の部屋であっても、石綿濃度測定や対策工事等の優先度は下げてはならないことである。

回答 : ③

【問題 3 5】 選択肢①、②、③、④は、現地調査総括票における「調査者からの今後の維持・管理のためのアドバイス」の項目（総合的判断）についての記述である。これらのうち不適切なものを選びなさい。

(選択肢)

- ① 維持 : 日常の維持管理で注意すべきことを記入する。
- ② 環境調査 : 建築物の周辺環境について記入する。
- ③ 対策 : 石綿含有建材の状況に応じて、囲い込みや封じ込めなど、早期に対応すべき方策などを記入する。
- ④ 措置 : 石綿の除去に向けた中長期的な計画について記入する。

回答 : ②

【問題36】ア、イ、ウは、**現地調査総括票および現地調査個票の下書き**についての記述である。選択肢①、②、③、④は、これらの記述が適切（○）であるか不適切（×）であるかを示したものである。**組合せとして正しいもの**を選びなさい。

ア．検体を分析機関に送付した後、記憶が薄れないうちに現地調査個票を作成する。

イ．現地調査個票は調査した部屋の順番に作成する。

ウ．調査者の目視推定と分析結果報告が乖離している場合には、分析機関に問い合わせ原因を把握することが重要である。

記述 選択肢	ア	イ	ウ
①	○	×	×
②	×	×	○
③	×	○	×
④	○	○	○

回答 : ④

【問題 3 7】下の表は、レベル 3 の石綿含有建材の種類および製造時期を示すものである。表中のア、イ、ウ、エに当てはまる正しい組合せを選択肢①、②、③、④の中から選びなさい。

建材の種類	製造時期
石綿含有ルーフィング	1937 ～ ア
石綿セメント円筒（煙突材）	1937 ～ 2004
石綿含有パーライト板	1951 ～ 1999
石綿含有スレートボード・フレキシブル板	1952 ～ イ
石綿含有パルプセメント板	1958 ～ 2004
石綿含有ケイ酸カルシウム板第一種	1960 ～ 2004
石綿含有窯業系サイディング	1960 ～ ウ
石綿含有ロックウール吸音板	1961 ～ 1987
石綿含有ビニル床タイル	1952 ～ エ
石綿含有せっこうボード	1970 ～ 1986

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	1987	1999	1990	1987
②	1995	2004	2004	1995
③	1995	1999	1990	2004
④	1987	2004	2004	1987

回答 : ④

【問題 38】 選択肢①、②、③、④は、レベル 3 石綿含有建材調査における試料採取での留意点についての記述である。これらのうち不適切なものを選びなさい。

(選択肢)

- ① 岩綿吸音板のように捨て貼り材のせっこうボードなどと一体化した建材は一体として管理・改修・除去されるが、含有量を明らかにするため、必ず 2 試料として取り扱う。
- ② 実務上、竣工年度の情報から「見なし」で石綿含有建材・非含有建材を判断する場合もある。
- ③ 天井や壁が二重に施工されている場合、必ずしも古い材料が石綿含有で、新しい材料が石綿不含有とは限らないため、新旧両方の建材を試料採取する必要がある。
- ④ 試料採取道具は同じ種類の建材を採取する場合でも、毎回の試料採取後に必ず洗浄しなければならない。

回答 : ①

【問題39】ア、イ、ウ、エは、レベル3の石綿含有建材調査についての記述である。選択肢①、②、③、④は、これらの記述が適切（○）であるか不適切（×）であるかを示したものである。組合せとして正しいものを選びなさい。

ア．建材の石綿含有情報とは、石綿を意図的に原料として混入していたという情報である。

イ．国土交通省と経済産業省が共同で情報開示しているデータベースを引用する際は、判断根拠を明らかにするために、必ず引用元を明示する。

ウ．特記仕様書の左官工事や屋根工事に関する記載事項からは、屋上のルーフィングやコーキングの材料の確認ができる。

エ．実際に使用されている建材の石綿含有判定できるのは、図面に記載されている製品名の建材が使用されており、施工年月から製造年月を推測でき、メーカーが正確な情報を開示している場合に限られる。

記述 選択肢	ア	イ	ウ	エ
①	○	×	×	○
②	×	×	○	○
③	○	○	○	○
④	×	○	×	×

回答 : ③

【問題40】ア、イ、ウは、レベル3 石綿含有建材についての記述である。これらの記述のうち、適切なものはいくつあるか、選択肢①、②、③、④の中から選びなさい。

ア. 屋根ふき下地材として施工される石綿含有ルーフィングはレベル3含有建材である。

イ. 石綿セメント円筒は、煙突に使用される場合はレベル3含有建材ではない。

ウ. 石綿含有壁紙は、壁面の隅などに「不燃第0005号無機質壁紙」と記された、金色地に赤色で印刷された、3cm四方のラベルが表示してある場合がある。

(選択肢)

- ① 0 (なし)
- ② 1つ
- ③ 2つ
- ④ 3つ

回答 : ③